

「朝日のびのび教育賞」受賞

全国のインターネット市民塾による青少年教育活動

インターネット市民塾*の全国ネットワーク組織「地域学習プラットフォーム研究会」が推進してきた、子どもたちが手仕事職人の技や仕事のやりがいを学び、将来の職業を考える体験学習教材の開発活動が、2月に第14回「朝日のびのび教育賞」を朝日新聞社から受賞しました。

子どもたちが記者となって手仕事職人を取材しWeb記事にまとめる活動で、ものづくりへの関心や社会で働く職業観を育て、情報教育の一環としても役立っています。

活動は7年前から職人を取材してきた住民ディレクター活動に始まり、制作はインターネット市民塾やチューリップテレビが支援しました。富山大学人間発達科学部の山西潤一教授ほか、子どもたちの学習のための指導要領を開発し、教材は能面、ガラス造形品、義肢装具、調律サービスなど



e手仕事図鑑 <http://shiminjuku.org/teshigoto/>

イラストや映像が70種以上になります。

これらを全国どこでも体験学習に活用でき、さらに活動を共有できるクラウド型の「e手仕事図鑑」として収録しました。子どもたちが仲間と一緒に記事をまとめ、発信もできる双方向型システムで、インテックはこのプラットフォームを開発しました。

この仕組みを使って、富山で始まった活動が全国8地区に広がり、福島県からの参加は県外に避難した子供たちがふるさとの手仕事を知る機会となっています。

※ICTを活用して幅広い世代の知識発信・交流の場を提供する地域人材活性化プラットフォーム。インテックが提案・開発し、平成11年に富山インターネット市民塾からスタート、全国各地に広がっている。インテックは、インターネット市民塾システムやそのASPサービス、運用遠隔支援サービス、コンサルテーションなどを提供し、運営を支援している。

「IT産業の歴史と未来」

富山県立大で公開寄附講義

インテックは4月より、富山県立大学工学部情報システム工学科にて寄附講義を開講しました。

科目は企業経営概論『IT産業の歴史と未来』。東京大学大学院の江崎浩教授や慶應義塾大学の國領二郎教授をはじめとするIT分野の第一線で活躍する方々が8月まで15回にわたり、毎週講義を担当します。

講義では、「情報技術」が企業・産業を通じてどのように社会に溶け込んできたか、技術革新がもたらしたインパクトや産業化の過程における経営者の視点、IT産業の発展を支えた市場等について、技術・経営・学術の観点から考察します。複眼的な思考と歴史の中からIT産業の将来



約100名を前に講義する中尾哲雄CEO

を見出す力を学生に身につけてもらうことを目指しています。

4月15日の初回には、同大客員教授を務めるインテック代表取締役CEOの中尾哲雄がIT産業の発展の歴史に関する講義を行いました。

なお、この講義は同大の学生だけでなく地域の皆さまへ無料で公開しています。